

第 399 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 6 年 3 月 5 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] もにゃと朝橘
[放送日時] 令和 6 年 2 月 25 日(日) 21:30～22:00
令和 6 年 3 月 3 日(日) 21:30～22:00
[出演者] 中根もにゃ(STARMARIE) 三遊亭朝橘
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
委員 小野晃司
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明
編成制作部担当部長 寺田和史
5. 事務局報告 ○ K-MIX の年度末の状況と新年度の展望を報告
6. 番組審議
[番組名] もにゃと朝橘
[放送日時] 令和 6 年 2 月 25 日(日) 21:30～22:00
令和 6 年 3 月 3 日(日) 21:30～22:00
[出演者] 中根もにゃ(STARMARIE) 三遊亭朝橘
[番組内容] 一週間が終わろうとしている時間にお届けする、性別・年齢・職業も違う、しかし、湖西市(もにゃ)、沼津市(朝橘)と“同じ静岡県”出身の 2 人による「ぬるま湯トーク・バラエティ」。毎回もにゃが、日常での出来事、出会い、ふと感じた思い、疑問、違和感などを、朝橘に話していきながら、そこで生まれた「気づき」を 2 人で、そしてリスナー皆さんともシェアしていきます。

[聴取・合評での主な意見]

小野委員

もにゃさんと朝橋師匠、それぞれのトークは成立しているが、2人の掛け合いとなると、うまく調和がとれていない時がある。ジェネレーションギャップを埋めるための知識と感性の違いが大きいのか、違和感を感じる。話題は良いと思うので、2人がギャップを埋める方向に力を入れて行くと、番組的にぐっと、良くなって行くのではないだろうか。番組としての狙いもあるのだろうが、例えば、朝橋師匠が若者のスタンスに感心してみたりすると番組の包容力も増して、聴いていても、より面白味が増すと思われる。

加藤委員

とてもよく練られている番組だと感じた。番組冒頭でトークを1つ完結し、各回のテーマに話題を変え、最後に朝橋師匠のいわゆる「オチ」をつける展開は2人の少しかみ合わないトークを含めて、番組の型になっている。その分、番組全体には、やや、緊迫感があるように感じた。特に「気付きを与えるテーマが強い放送回」は、朝橋師匠が話を膨らまそうと言葉を多くするため、顕著になる。朝橋師匠のトークの説得力は目を見張るものがある。これに対して、もにゃさんもしっかりと、トークや態度で打ち返しているので、番組が何とも言えない不思議な魅力を感じる。日曜の夜に「気付き」を与えてくれるこの番組は、聴き手にいろいろな話題・感想を提供してくれていると思われる。

服部委員

日曜の夜、落ち着いた時間に聴くシチュエーションで聴いてみた。テーマにも影響されるが、朝橋師匠がもにゃさんのテーマに対して、情報や表現の足りないところを補って、さらに話題を広げる役割を担っており、その任に余りある。回転の良さも加わり、その結果二人のトークテンポは全く違うものになっているが、朝橋師匠の途切れのないトークや、テーマの内容を紹介する際の「色・形状・たとえ話」などの表現力は卓越しており、さすがは、落語家と思わせてくれる。テーマによってテンポ感が変わる番組ではあるが、あまり打合せをせずに、ぶっつけ本番に近いトークであるということなので、面白くなる要素がたくさんある番組であると思った。

角田副委員長

番組スタート時に比べて、およそ3年を経た現在は、2人のトークのバランスが取れていて、落ち着いたという印象を受けた。朝橋師匠の、トークの安定感が増して、もにゃさんの、テーマに対する学習する姿勢が増していることがその理由の一つと思われる。一方、テクニカルな問題ではあるが、朝橋師匠の声が大きく聴こえ、もにゃさんの声が少し小さく聴こえるというマイクバランスの差が、朝橋師匠がたたみかけているように聴こえる要素になっていると思われるので、この点は改善できると思う。また、テーマを提供するもにゃさんが、さらに一段階、テーマへの知識を深めると、朝橋師匠との会話も弾むため、さらに、聴き応えのある2人トークになり、番組の面白さも増すのではないかと思われる。繰り返しになるが、当初に比べて、2人のバランスは良くなったと感じた。

木宮委員長

番組開始当初は、番組の構成からも、話しが長いという指摘があったが、時を経た今の時点でも、やはり、話しは長く感じる。1つのテーマで15分程度のトークが毎回展開されるが、打合せなしの本番トークが主となると、ともすると、15分（1回分）をもたせよう。または、まとめようと意識してしまうのではないだろうか。トークに費やすことができる時間から逆算して、トーク内容を割り振り、最後は、整合性をとって、まとめるという展開が垣間見える。この点は、「ゆったり聴かせてくれる」という利点もあるが、一方で、「中身を濃くしてほしい」という要求も持たれるのではないだろうか。これまで通り、テーマを1つにして、知識を深めて濃い内容にするのか、テーマを2つにして、テンポよく進めて行くのかも検討すると良いのではないか。また、2人のコンビネーションを、検証してみる時期かもしれない。それぞれのトークには魅力があるが、「この2人のトークを見たい、聴きたい」と聴取者が思うかどうかを、考えてみても良いのではないか。

会社サイド

この番組は、テーマを持ち込んだもにゃさんがテーマに対して、通常の番組のような事前に調べてその成果を持ち込むということをせずに、番組を進めることによって、いい意味で聴き手や聴取者をヒヤヒヤさせるということをひとつの柱にしてきた番組ではあるのですが、今回を契機として、「テーマを持ち込んだ本人も、しっかり内容を把握してトークに参加するスタイルにする。」または、「朝橋師匠が1人で引っ張って行く。」といった、様々なスタイルの余地があるのだと考えます。

以上

次回開催日 令和6年4月9日(火) 11:00~13:00 を予定

番組審議会委員長
木 宮 敬 信